

ProCare Sure I-PMプロセスインジケータ – 使用手順

アプリケーション

ProCare Sure I-PMプロセスインジケータは、洗浄消毒器の日常的なモニタリングで使用します。事前定義された参照値との比較を通じて、プロセスパラメータへの変更をフラグを立てます。

洗浄消毒器の作動メカニズムは、次のパラメータの相互作用によって決まります。

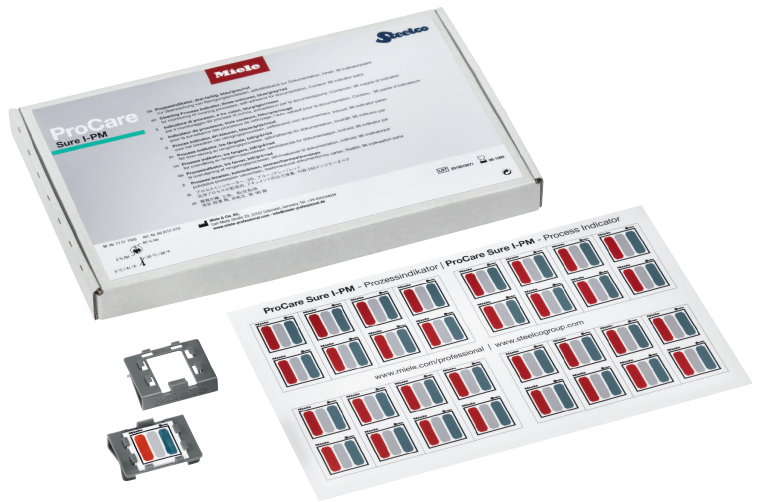
- 洗剤
- 時間
- 温度
- 機械的作用
- 水質。

たとえば、洗浄強度の違いは、使用する洗剤の種類（アルカリ性、弱アルカリ性/酵素性など）または水質（軟水または十分に脱塩された水など）に起因します。投入やスプレー圧など、洗浄消毒器自体がモニタリングする技術パラメータに加えて、プロセスインジケータは、水質の変化などの稼働性能適格性確認中(PQ)に定義された参照値との比較に基づいて、矛盾に注意を向けます。

プロセスインジケータは、洗浄能力を証明するものではなく、訓練を受けたユーザーによるパラメータ承認の代替として意図されていません。ミーレは、各サイクルで少なくとも2個のプロセスインジケータの使用を推奨しています。

商品概要

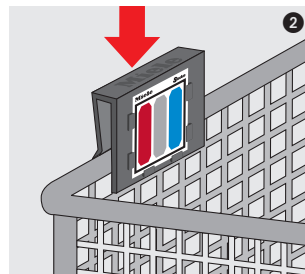
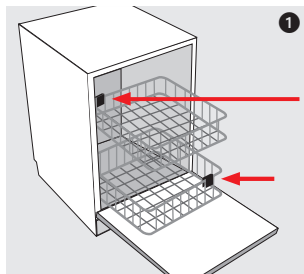
インジケータのシートは、個別のインジケータ32個で構成されています。シートにはインジケータのペアの間にミシン目が付けられており、折りたたむことで二重インジケータの使用を簡単にします。自己粘着性と耐熱性の各プロセスインジケータには、それぞれ異なる洗浄性を示すカラーバー3本が印刷されています。カラーバーは、さまざまな程度の付着を伴う、合成および非毒性テストの課題を表しています。これにより、水質とスプレーアームの機械的作用など、幅広い差別化された範囲のパラメータが網羅されることが保証されます。



使用 – 一般的な準備作業

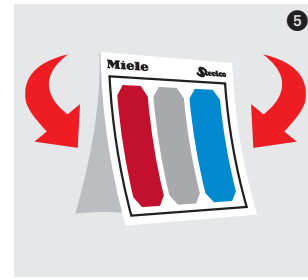
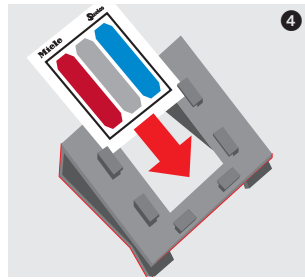
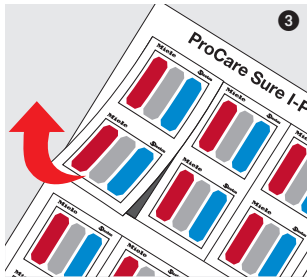
試運転または検証中に、プロセスインジケータ2個がプログラムサイクル全体を通じて必要な洗浄アイテム構成に含まれ、洗浄アイテムと共に再生処理され、特定の洗浄アイテム構成に関する初期の洗浄基準を提供します。ミーレは、各再生処理サイクルで少なくとも2個のプロセスインジケータの使用を推奨しています。

ドキュメントシートは、参照値とルーチン値の両方を記録するために使用されます。両方のインジケータから接着剤バックングを剥がし、それらをドキュメントシートに貼り付けることにより、記録が簡単になります。これらは、インジケータが使用される今後すべての再生処理サイクルのベンチマークおよび参照として機能します。チャンパー全体から値を取得するために、プロセスインジケータを互いに対角線上に配置する必要があります。前面と背面に1個ずつです。ラックレベルが2段あるモデルでは、レベルのそれぞれにプロセスインジケータを配置します。ラックレベルが1段だけのモデルでは、1個のインジケータを前面と背面に対角線上の反対側の角(1)に配置します。プロセスインジケータを含む両方のホルダーは、ロードキャリアまたは下部および上部バスケット(2)に取り付けることができます。インサートを使用する場合、洗浄物にさえぎられる場合はプロセスインジケータをインサートに直接取り付けます。カラーバーは常にチャンパーの中心を向いている必要があります。プロセスインジケータは、検証とルーチンテストの両方で常に同じ位置に配置する必要があります。



ProCare Sure I-PMプロセスインジケータの説明

カラーバーが、手指の消毒液や汗で汚染されないようにします。Miele & Steelcoのロゴが付いた外側は、プロセスインジケータの処理に使用する必要があります。シートから個別のプロセスインジケータ2個(③)を外します。穴に沿ってインジケータ2個を分けます。ホルダーにプロセスインジケータを挿入して、会社名が上を向き、カラーバーが正面を向くようにします(④)。二重インジケータを使用する場合は、ミシン目で折ります。印刷面を外側に向けます(⑤)。次に、洗浄消毒器の準備が完了し、それぞれのサイクルが開始されます。



評価

プログラムの最後に、プロセスインジケータが付いているホルダーを個別に外し、基準値と視覚的に比較します。カラーバーを削除する度合いは、基準値に対応している必要があります。そうでない場合は、“洗浄不足の原因を特定する際の注意事項”に記載されている手順に従って続行します。適切に訓練を受けた人は、特定の洗浄物に関して承認を与えるかどうか、または再生処理を繰り返す必要があるかどうかを決定します。

洗浄不足の原因を特定する際の注意事項

基準値からの逸脱には、さまざまな理由が考えられます。

考えられる原因	措置
不適切なプログラムの選択	<ul style="list-style-type: none"> サイクル記録に記録されたサイクルを確認します。 適切なプログラムパラメータで必要なサイクルを選択します
洗浄物構成の変更	<ul style="list-style-type: none"> 洗浄物構成を参照と比較します 参照構成に従って洗浄物を配置します インジケータが洗浄物に塞がれる位置を避けます
プロセスインジケータの誤配置	<ul style="list-style-type: none"> プロセスインジケータの位置を確認します 指定された場所にプロセスインジケータが付いたホルダーを取り付けます
洗剤の変更	<ul style="list-style-type: none"> 内部または外部供給タンクに正しい洗剤が入っていることを確認します 洗剤の使用期限を確認します 必要に応じて洗剤を交換します
スプレーアームの詰まり	<ul style="list-style-type: none"> スプレーアームが自由に回転することを確認します 洗浄物を配置するときは、スプレーアームの回転が妨げられていないことを確認します
チャンバー内のフィルターの詰まり	<ul style="list-style-type: none"> チャンバー内のフィルターを清掃します 必要に応じてフィルターを清掃します
・水質の変更	<ul style="list-style-type: none"> 軟水化システムの機能を確認します

保管と廃棄

開封後、プロセスインジケータは他の化学物質から分離し、次の条件下でパッケージに保管します。温度:5-30°C、湿度:5-80%。パッケージの使用期限を超えてプロセスインジケータを使用することはできません。使用済みのプロセスインジケータは家庭ごみと一緒に処分できます。